

肺癌に合併した鼠径骨盤内キャスルマン病の 1 例

辰岡浩樹¹⁾，安井裕美¹⁾，浅野真理¹⁾，大西隆仁²⁾

1) 西脇市立西脇病院呼吸器内科，2) 同病理診断科

要旨

症例は 69 歳男性，胸部 CT で左上葉結節影を認め，気管支鏡下生検で肺腺癌と診断された．胸腹部造影 CT では両側鎖骨上に造影効果を伴わないリンパ節腫大を，右鼠径，骨盤内に早期に強く造影されるリンパ節腫大を認めた．PET/CT では鼠径骨盤リンパ節は鎖骨上リンパ節より FDG 集積が弱かった．肺がん以外の疾患合併を疑い右鼠径リンパ節生検を施行した．病理診断で混合型のキャッスルマン病と診断された．悪性腫瘍に合併するリンパ節腫大を転移性病変と判断ができないときは積極的に生検を行うことが重要である．

キーワード：肺癌 Lung cancer, キャッスルマン病
Castleman's Disease, FDG-PET/CT FDG-PET/CT

短縮タイトル：肺癌に合併したキャッスルマン病の 1 例